

# まちづくり ひろしま

被爆100年(西暦2045年)の姿をめざして

第26号 (平成28年11月15日)

読者数：567名 (募集中)

メール：[hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp](mailto:hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp)

〒733-0002 広島市西区楠木町1-9-7

発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二

配信元：広島アイデアコンペ実行委員会

ご提案・ご意見等は、こちらまで

## □巻頭言

### 地方で人口増を目指すための住環境とは

ダブルネットワーク(株)代表 中小企業診断士  
若本修治



今、日本の政治では景気対策はもちろんのこと、東京一極集中の是正が大きな課題になっている。地方の人口減を食い止めて地方に雇用を創出する『地方創生』が今後の政策の優先課題だ。地方の人口減は、高齢化によって亡くなる人々の増加は当面止めようがなく、人口のボリュームの大きい「団塊世代」が平均寿命を迎える頃まで続くだろう。

一方、対策が可能だとしたら、人口の「自然減」に繋がっている“少子化”と「社会減」に繋がっている“若者の都市への流出”だ。つまり地域の若者が地元で働き、地元で結婚して子育てをするような環境を整備することしか地方の人口減を食い止める方策はないといっても過言ではない。

もちろん今は大企業になった東京本社の創業の地への本社移転や一事業部門の転出など、自治体の熱心な企業誘致によって社会増も可能だろう。しかしグローバル化が進む中、労働賃金やインフラ整備、地域の潜在需要などを考えると、投資効率から言っても日本の地方よりも国境を越えての海外進出の方が企業にとって経済合理性が高いといえる。だから経済合理性以上に「子育てしやすい環境」や「住み続けたい環境」を整えるしか流出は止められない。

少子化の問題でまず挙げられるのが、『待機児童の解消』など、子供を預かる環境が整っていないから「生みたくても生めない」という意見。もちろん晩婚化や経済的理由、夫婦間の関係など様々な要因があるが、昔と比べてそれほど子育ての環境が悪化しているのだろうか？むしろ「仕事」と「子育て」が両立しにくく、子育てが妻一人の負担になっている状況の改善こそが必要だろう。それは産休後の職場復帰や『イクメン』に代表される“夫の育児休暇取得”といった制度的な問題よりも、むしろ子育てが“孤独な環境で行われている”という「母親の心理的影響」も決して小さくない。

東京のように、通勤の往復で何時間も費やし、残業が当たり前前の環境であれば、仕事と子育ての両立は容易ではない。プライバシーを重視した大都会の住宅地は、近隣との人間関係は希薄で、夫の帰りが遅くなれば、1人目の子供を産んだ時点で、経済的にも今の女性が次の子供が欲しいとは思えないだろう。この「若い主婦の孤独感」こそ、合計特殊出生率（未婚女性を含む「全女性」が一生に生む子供の1人当たり平均数）低下の隠れた課題であり、少子化解消の大きなヒントが隠されていそうだ。

この問題は、現在の首都圏ではほぼ解決不可能であり、逆に地方こそ大きなチャンスが眠っている。東京では困難な「通勤や残業に時間を取られない」ことや「近所同士が顔見知りで、子育てや介護を助け合える」コミュニティづくりが地方では可能だ。地価や物価が安く、生活しやすい環境も首都圏にはない地方の強みだ。こう考えると、高度成長期から郊外につくられ

た画一的で、プライバシー重視のベッドタウンではなく、通勤時間の短い「都市近郊」に、低層高密度につくられた、伝統的な近隣の住宅街がイメージされる。地域に商売人も高齢者もいて、地元でお祭りを開催するような町内会に若い人たちが参加しやすく感じる、活気あふれる“下町情緒ある住宅街”だ。

このような開発は、伝統的隣住区開発（TND）と呼ばれ、住民間のトラブルや犯罪発生率が、住宅地の人気や資産価値維持に大きな影響を与えることが分かった米国で、80年代から増加している。車社会になる前の“徒歩を中心とした住宅地”で、まるで縁側や勝手口からご近所の家を訪ねるような日本のコミュニティに、洗練された住宅が建ち美しい景観をつくっている。地盤沈下しつつあった街が再生され、新しい入居者を呼び寄せ、入居者の資産価値も上昇する好循環も生まれているのだ。



米国で最初に手掛けられた『シーサイド』（フロリダ州）TND住宅地の街並み。車より、人や自然を優先したこの街は、開発から30年経っても高い人気が続いている。

しかし広島では、未だに企業が撤退した大規模な工場跡地や配送センター、自治体の公有地が利用されないまま、大資本の巨大商業施設や高層マンションを誘致している。さらに郊外に大型団地が開発されて、県外本社の大手ハウスメーカー中心に高額な住宅販売が続いている。その上、相続税の基礎控除の見直しによって、空き家率が高まっているエリアに、相続税対策の賃貸アパート建設着工が、行政の「建築許可」によって進められているのが現状だ。



ハイポイント（ワシントン州）

持続可能な地域社会を考えた場合、地元の設計事務所や建設会社中心に、開発から分譲を手掛け、さらに将来にわたるメンテナンスまで可能なTNDによる住宅供給が望ましい。欧米のように実際に分譲される家をモデルホームにして、街区単位でまとめた住宅街を地元主導でつくれば、建築コストも数割抑えられ、魅力ある住環境もつくられるだろう。地元にお金が循環（＝雇用を創出）し、木造中心で低層高密度の美しい住宅地の再生が若者の流出を食い止め、住居費負担が少なく、子育てにやさしい環境の提供が可能となれば、広島に住みたい人がもっと増えていくのではないだろうか？

## ひろしまのまちづくりの動き

### ① たてものがたりフェスタ2016

広島県内の魅力ある建物で各種イベントを楽しむ「たてものがたりフェスタ2016」が平成28年10月15日（土）～11月13日（日）の30日間開催。特に11月12日・13日は**公共建築の日**（11月11日）を記念して、中国地方整備局、広島県及び広島市などが連携し、公共建築の果たす役割を広く知ってもらうため、公共建築物のうち通常立ち入ることができない部分などを一斉に公開するイベントを行った。



広島現代美術館の公開風景

「ひろしまたてものがたり」は県内の魅力ある建物を発掘・発信する県民参加型のプロジェクトとして、広島県が平成25年から実施。モダンで美しい高層ビルから、情緒あふれるレトロ建築、貴重な国宝、世界遺産まで100の建物を選定し、広島らしい地域の宝として国内外に発信している。

\*たてものがたりフェスタ2016（広島県）：

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/tatemonogatari/festa2016.html>

マツダスタジアム（広島市民球場）もベストセレクション30に選ばれ、人気ランキングも第9位。今年のカープは25年ぶりにセリーグを制覇し、クライマックスシリーズを制し、期待が膨らむなか日本一を目指したが、惜しくも敗退。しかし、市民に夢と希望を与えてくれた

功績は大きく、市は球団に広島市民賞を贈った。

選手たちの活躍と熱心なファンによる応援の賜物であるが、マツダスタジアムの持つ空間の魅力が寄与したともいえる。ただ試合を見るためではなく、そこに足を運ぶわくわく感がチームと観客を一体化させ、選手も普段の力以上のものを発揮し、そのプレーにファンは歓喜した。観客動員数も立地の良い旧市民球場より大幅に増加したのはハードとソフトの相乗効果。

球場に限らず、市民が幅広く利用する公共建築は親しみやすく、愛される器になっていかなければならない。そのことを普及するための公共建築の日及び公共建築月間のイベントである。広島のみならず、市民に親しまれる空間が増えれば、愛着を覚え、誇りを持てるまちになり、市民の意識が変わる。ひろしまは住みよい魅力的なまちになっていくであろう。

11月12日は午前中に基町高層アパート見学会があり、午後は設計に携わった建築家藤本昌也氏を交えたシンポジウム「広島基町高層アパートと大高正人」が開催された。多数の参加者があり、有意義な意見交換がなされた。次号でシンポの詳細を紹介する予定。

(編集委員 瀧口信二)

## ○ 広島復興の軌跡 (第21回) ~広島市の復興顧問ジョン・モンゴメリー~

広島復興過程でアメリカ人やオーストラリア人等の関わりがあったが、そのことの意味は様々に評価されている。その中において、単純に有り難がることはないが、かといって彼らの意図が悪意に満ちていたと判断することは必ずしも妥当ではないと思われる。もう少し冷静に検証しても良いであろう。一方、逆に現在日本が海外に出掛けていって意味あることができるのか、進めている日本政府・JICAのODAや県・市の平和構築活動などが果たして有効な活動になっているのかという基本的な問題がある。これも単純には評価できないといえるが、戦後の広島復興期から、なにか示唆するところはないであろうか。



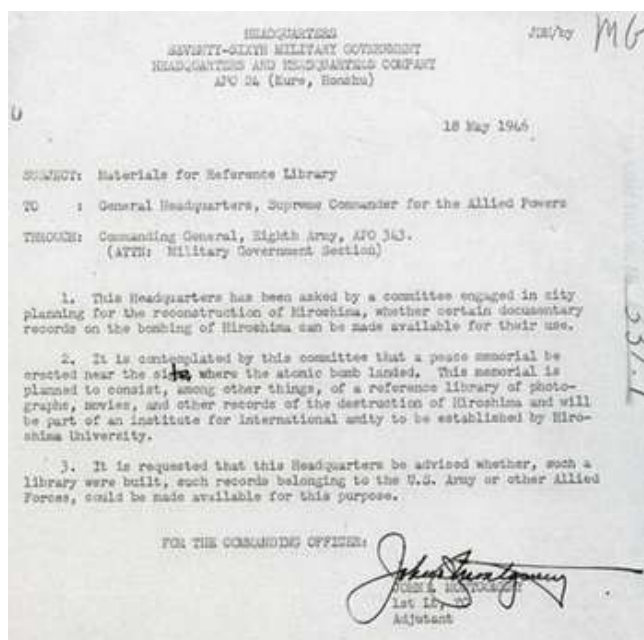
資料1 中国新聞記事

### ジョン・D・モンゴメリーの登場

広島において復興顧問として最初に名前が登場するのは、1946(昭和21)年5月17日付中国新聞で、「恩讐の国境を越え引受けた指導役／顧問になる米英二将校／美しきヒロシマ／世界の為に再建」(資料1)として英国人のハービー・サテンと米国人のジョン・D・モンゴメリーが紹介された時である。特にモンゴメリー(その後モンゴメリーと呼ばれることが多く、ここではそれに従う)はミシガン大学市政科出身とされ、広島復興計画に強い関心をしめした。この時モンゴメリー中尉は軍人として呉市内に駐屯し、復興顧問に就任してからは広島市役所にジープで通ってきたといわれる。

### 主要な発言とその特徴

早速5月17日に開催された第11回の広島市復興審議会に出席し、積極的に発言している注1)。その内容は、翌18日付中国新聞と「広島新史資料編II」に記録されており、その内容は多岐にわたるが、特に後に原爆ドームと呼ばれるようになる物産陳列館の保存



資料2 モンゴメリーの書簡

とその新たな利用を説いたのであった。

実はモンゴメリーの発言だけに止まらず、物産陳列館の利用において必要となる被爆資料等を提供するようGHQ本部に書簡をしたため、送付したのである(資料2)。GHQからの返書は、計画が具体化した時に改めて要請せよという極めて素っ気ないものであった。

### あっけない帰国とその後

モンゴメリーには広島で成し遂げたいことが多くあったに違いない。しかし、早くも帰国命令が届き、1946年6月中旬急遽呉を離れることになった。

モンゴメリーは余程気になったのかその後度々日本・広島を訪れ(1982年、1984年、2008年)、自らの提案がどうなったのか確かめようとしたのである。もちろん原爆ドームは保存され、被爆に関連した資料館が建設されており、先駆的な提案は一定の役割を果たしたといえる。



ただし、モンゴメリー提案が直接的に影響したというより、紆余曲折を経て実現したために、モンゴメリーの名が冠され、記録されるどころとならなかった。

とはいえ、西欧人の特徴的な発想である何かを記念したり、保存して何かを伝えようとしたりすることは、独特のものがあつた。もともと日本にもそのような発想がないわけでは無かったが、戦後直後の混乱期に西欧によって吹き込まれ、しばらくして陽の目を見るという経過を辿つたのであつた。原爆ドーム保存が日本人だけの発想で実現したと捉えないように、ここに書き留めておく。

(編集委員 石丸紀興)

注1) : 広島市編「広島新史資料編Ⅱ(復興編)」(広島市発行、1982年) pp. 48-52

参考文献1 : 拙著「広島戦災復興計画時における復興顧問ジョン・D・モンゴメリーの計画思想とその果たした役割に関する研究」(都市計画論文集 No. 44-3, pp. 829-834, 2009年)

参考文献2 : 拙著「広島戦後復興における計画思想としての平和記念都市の提案・形成・成立過程に関する研究」(広島平和記念資料館資料調査研究会研究報告第8号、2012年)

## □ほっとコーナー

### ～ノラ猫 クロちゃん～

NPO法人心豊かな家庭環境をつくる広島21 高東博視

真冬に「ミュー・・・」と外で子猫の鳴き声がする。我が家の柴犬「モモ」が猛突進して庭から追い出そうとしている。子猫は小さな背中を丸めて一人前に威嚇。長～い尾、全身が真っ黒のノラ猫だ。

1か月後、大きなオス猫があの子猫を追っかけている。春先は猫たちの発情期だ。もしも子どもが生まれたり、その先は容易に想像できる。避妊手術しかない。数日後、意を決して子猫を捕まえ、借りてきたゲージに押し込んで動物病院へ。手術はわずか1日入院で無事に終わった。帰り際に「手術後、猫は恐れて家に寄り付きませんよ」と獣医さん。

まだ夜中は冷え込む、麻酔がさめると痛いだらう。その晩は、ゲージに入れたまま車の中で過ごさせた。翌日、ゲージを庭に持ち出して扉を開けた。一目散に逃げ出すだろうと想像していた。ところが目の前でゴロンと寝返りを始めた。獣医さんの話と全く違う。

勝手に手術をさせて、ほっておくのも身勝手すぎる。暫くは腹いっぱい食べさせてやろう! こうして1週間もすると、すっかり元気になった。そして我が家に居ついてしまった。朝夕の「モモ」の散歩には必ず付いてくる。後になり先になり一生懸命追っかけてくる。道ゆく人も不思議そうに振り返る。こんな猫は見たこともない。

我が家の主は「モモ」だ。新しい家族にするか、なかなか決心できない。2か月後、とうとう真っ赤な首輪を着けてやり「クロちゃんと名付けた。黒に赤が可愛く良く似合う。我が家は老犬と子猫そして大きなミドリガメ2匹の世話で大変なことになった。



## ○ 「時代を語り建築を語る会 (第14回)」 語り人：岡河 貢氏・宮森洋一郎氏 ～広島ピース&クリエイト2045は何を残したか～

平岡市長時代のデザイン政策「広島ピース&クリエイト2045」(以下ピークリ)について語る会代表の石丸氏が論点を提起し、岡河氏と宮森氏を交えて鼎談風に議論した。

主催：時代を語り建築を語る会実行委員会 (代表：石丸紀興)

日時：2016年9月16日(金) 18:30～20:30

場所：合人社ウェンディひと・まちプラザ

### ☆ 論点提起 (石丸)

建築による街の改造計画にフランスのミッテラン大統領時代のグラン・プロジェがある。日本では1980年代後半に熊本の細川知事によるアートポリス政策があり、著名な建築家の作品が次々と誕生。その流れで広島でも1995年から被爆50周年を記念してピークリがスタート。今は立ち消えになっているが、10近くの完成作品があり、ピークリの制度の意義や在り方、作品等について議論したい。

### ☆ 自己紹介を兼ねて日頃考えていること

(宮森) 設計事務所を開設して35年。広島のみちや建築について気になる点や提案等の事例を紹介。

(岡河) 若い頃グラン・プロジェの一つラ・ヴィレット公園のフォーリーの設計に参画した経験あり。18年前に呼ばれて広大の建築学の教鞭をとる。パリの大改造計画は古い街並みに新たに魅力的な建築を点として整備し、周りを活性化していく政策。その考えを建築家磯崎新氏が取り入れて熊本のアートポリスをプロデュースし、広島のみちやにつながる。

### ☆ ピークリに対する評価

(宮森) 多くは外部のデザイナーに委ねられ、地元の建築家は忸怩(じくじ)たる思いがあった。一般的に外タレをありがたがる風潮があるが、頼り切るのはまずいので、地元の人たちが中心となってまちを改善していく自己再生産システムが求められる。

(岡河) ピークリはアトリエ系の建築家に依頼する手法に終わって、本来の意味が問われていない。ピース&クリエイトのクリエイトはなされたが、ピースが欠落。見直しが必要。

(石丸) 行政主導のシステムのメリット・デメリットを整理し、良い点は評価して継承していくのがよい。市民の建築文化を高めるためにもピークリ対象の公共建築はもっと議論して成果を活かすべきである。

### ☆ 被爆建物の活用

(岡河) 広島も原爆ドームを残したことで平和を世界にアピールできるまちになった。ピークリの精神を育てるためにも被爆建物を積極的に活用していくべきだ。

(石丸) 同感だが、被爆建物を活用するには構造、法規、予算等の問題が山積して袋小路状態にある。それを乗り越えるための戦略を考える頭脳集団が必要。

### ☆ これからやりたいこと

(岡河) グラン・プロジェはパリの生き残り戦略の一つ。広島もグローバルなメッセージが可能であり、国際都市の意識をもって取り組みたい。ピークリは広島にしかできないことであり、被爆建物をつないで広島全体を平和公園のプロムナードにするアイデアを持っている。

(宮森) ピークリの中工場は開放的で美しいし、マツダスタジアムもみんなから愛され、この二つは公共建築のお手本。建物の良さを市民に感じてもらえば、建築文化を高めることができる。そのためにもより良い公共建築を生み出す設計者選定システムが求められる。

(石丸) 被爆建物は自分のメインテーマの一つとして取り組み、その活用の実施段階では国際コンペで英知を集めるとともに世界にヒロシマを発信できればよいと思う。広島平和記念都市建設法を活かしたまちづくりの復活を目指したい。

### ☆ まとめ

(石丸) 外来の建築家でも優れた設計なら地元にとって貴重な財産となる。ピークリの理念を再構築して設計に反映できるデザイン政策に発展させていければよいと思う。

(編集委員 瀧口信二)



岡河貢氏 (広大大学院  
建築学専攻准教授)



宮森洋一郎氏 (宮森洋  
一郎建築設計室主宰)

## ○ ひろしま市民ひろばの提案！

2011年に広島市中央公園アイデアコンペを終え、地元の建築家として何か提案しなければという思いから、日本建築家協会中国支部広島地域会のまちづくり委員会で検討し、ひろしまのランドデザイン「ひろしま市民ひろば」をまとめた。2013年3月に広島市に報告し、各種イベントにおける展示・発表等で多くの意見をいただいた。さらに議論の輪を広げるため、具体的な提案を順次紹介していく。

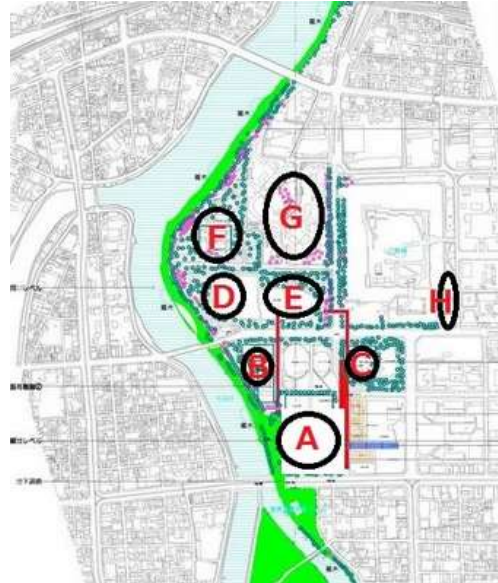
### ステップ3. ファミリープールをDゾーンに移設

老朽化が進むファミリープールであるが、現在も夏になると親子連れで大変な賑わいをみせている。しかし、市の中心でかなりの面積を持ちながら、冬になるとまったく機能しないもったいない施設でもある。これをDゾーンに移設し、日本の情緒をもつ施設として建て替えることを提案する。

日本の情緒を持たせることで、夏の水遊びの場としてユニークな空間になるだけでなく、冬は屋外で楽しめる日本の遊具やこたつ茶屋を設けた公園として開放し、一年を通じて親しまれる施設とすることが目標である。

広島の子供たちが日本文化にふれる機会を積極的に増やし、将来の国際交流の素地を養ってほしいとの願いを込めた。

- ・夏場は簡易仕切り（点線）を設けてファミリープール（有料）として利用し、夏以外は公園として開放します。
- ・竜の池は通常のプール、河童の川は流水プールを想定しています。
- ・ゲートハウスは長屋門風の建物で、チケットや飲食物等を販売します。
- ・回廊型の栈敷席は、子供を見守りつつ大人が休憩できる場所ですが、冬季はこたつを並べ屋外空間でゆっくりお茶を飲む施設とするなど、冬季にも積極的に利用できる施設とします。
- ・機械室、便所、倉庫等を設けたL字型の建物で外部と仕切っています。
- ・護岸の親水広場とDゾーンは太鼓橋などでつなぐなど、川に親しむ仕掛けを考えます。



全体のゾーニング計画案  
(ゾーンの凡例はメルマガ25号参照)



ファミリープールの配置計画案

- 1: ゲートハウス  
(チケット売り場、売店、脱衣室、トイレ、他)
- 2: 回廊栈敷 (冬季こたつ茶屋)
- 3: 設備棟 (機械室、トイレ、倉庫等)
- 4: レストラン



イメージ写真

(日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会 高橋幸子)

## 〇瀬戸内の集落の話し (第3回: 平郡島の2集落)

森保洋之 (広島工業大学名誉教授)

今回は、平郡島 (へいぐんとう) の2集落について、お話しします。山口県柳井市平郡島は、柳井市の南約20kmの伊予灘北側、周防大島の南西に位置する東西細長い離島で、面積約17km<sup>2</sup>、周囲31kmである (図1)。地形は山が多く平坦地が少なく、島の西部の南岸と東部の東岸に入り江があり、そこに平郡西・平郡東の2集落がある (写真)。島の名称は源 (木曾) 義仲の遺児平栗丸 (平群丸) (へぐりまる) に由来すると言われているが定かではない。西集落は砂州地に拓けた準格子状の集落、東集落は海側への道と海岸線の道により構成された集落で、共に半農半漁村である。実は、同島内ながら、両集落は互いに存在を知らず、相互交流もなされなかった歴史を持つ。ピーク時人口は1950年頃: 約4千人、今年4月頃: 約260世帯、約400人である。明治期、北海道やハワイへの移民の多い島であった。ミカン栽培と共に、豊かな海での水産物「平郡ダコ」が有名である。本土とは、柳井港より1日2往復運航のフェリーで結ばれ、柳井港⇒平郡西: 60分、平郡西⇒平郡東: 40分である。以下、集落の特徴を示す。



西集落の風景 (HPより)



図1 平郡島の位置

- 両集落共に、島嶼部特有の強風のため、住戸形態の多くはロ字型等の囲い込み型で、平面は田の字型、囲い込まれた空間は中庭や畑である。
- 建物の外壁の仕上げは、塩分に強く耐久性のあるコーラル塗りが多く、真黒な壁の連続と云う印象的な集落である。
- 両集落共に中間領域が豊かで、西集落では軒下空間や家と家との間の空間、東集落では家の前庭的空間である門(かど)等が通り抜け空間になっていた。
- 両集落共に、通りの形態は、格子状の「格子型」、急傾斜面片流れの地形の「触手型」、通りが海から山に向け垂直に並ぶ「垂直型」等の3種である。その「格子型」の西集落の場合、次の4種の通りがある。①「原の道」: 海岸と平行した山側にある通り。②「中道」: 海岸と原の道の間での通りで、古くは石垣の防波堤であった。③「浜の道」: 海岸線沿いの防波用の石垣を持つ通り。④「縦道 (たてこう)」: 原の道から、中道、浜の道を垂直に結ぶ、各家の軒下を住民が拡張した通りで、住民交流の場になっている。東集落の場合、海側にも一つ、「浜」: 海岸線沿いの通りがある。
- 両集落共に、水路が主、通りが従属的に形成され、共同井戸は、西集落は「原の道」に沿って点在し、東集落は全体に配されていた (図2)。
- 集落の形成過程は、西集落では、古くから砂州を生かし形成され、砂州地に拓けた故に、当初は下水道は整備せず、後にそれを整備した経緯がある。準格子状の集落形成の段階としては、5期が想定できた。一方、東集落では、中央にある小学校辺りから集落は形成されはじめ、その両サイドに集落が広がったことが確認された。
- 生活・社会構成から集落の空間構成との関係を見ると、
  - ①社会組織 (自治会) の境は、主に、通り・川・敷地境界線であった。
  - ②平郡島は耕地が少なく、人々は山の急斜面を切り開き段々畑をつくり、昭和30年代には「平郡牛」が放牧され、漁業では網を使ったイワシ網漁が大規模に行なわれていた。
  - ③「相続」について両集落は大きく異なり、西集落は「長子相続」で、長男以外は相続が受

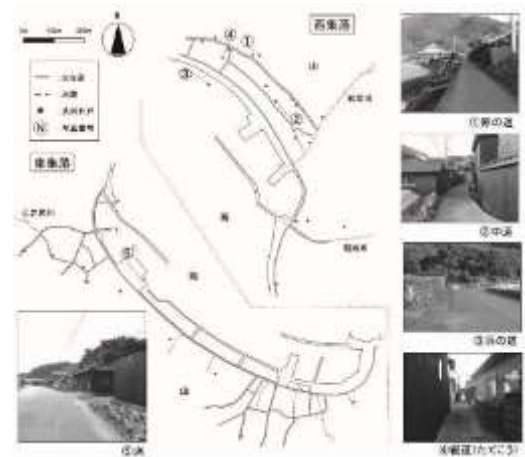


図2 各集落の通り・水路・共同井戸等の位置

けられず、島外に出ていく者が多い。東集落は《分割相続》であり、長男以外も相続を受け、集落内に住み続けるため、土地が狭く密集し、西より東集落の方が人口は多くなっており、集落の土地利用に相続が強く関係していた。

- ④両集落共に共同井戸が点在しているが、その主な利用範囲は社会組織（自治会）の範囲であった。
- ⑤「役目制度」は、共同作業・社会奉仕の制度である。現在これにより、海岸のゴミ拾いや草刈等を行なっているが、昔は、造成する通りの整備の手伝い等も行なわれた。基本的に皆で行なうが、当日参加できない者は、他の代理人をだすか、料金（負担金：ペナルティ）を支払った。調査当時、西集落のみ機能していたが、通りや町をつくり、維持する制度の一つであった。
- ⑥「やといど」は、集落内で相互扶助の精神から、農作業の手伝いや住宅を建てる時など、互いに労力提供したもので、生活に必須なものであった。
- ⑦「土地共有制（地割制）」と云う土地割替制度を長い期間持っていた。
- ⑧「トマリヤ（泊り屋・若衆宿）」は、若者が心得・しきたりを学ぶ場所で、西集落で3軒確認できたが、昔は多数あり、技術・文化の伝承など教育の場であった。なお、現在は機能していない。
- ⑨東集落には宗派の異なる2寺があるが、西集落の場合、2寺を1寺にし、集落住民が全員、その檀家となり、寺を維持していた。近年、本土に墓を移す例があり、集落人は、集落を守るため、墓だけは移動させぬように願っていた。

●総じて、平郡島の両集落は、周りを海で囲われ、高い自立性、持続性が求められ、上記の多くの内容が、それらを下支えしていた。また、様々な生活・社会構成が、家、通り・水路、町の空間・形態に大きな影響を及ぼしていた。等々が理解された。なお、祝島との類似点も多く確認された。次回は、沖家室集落と4回のまとめの話しを致します。

## 〇こまちなみシリーズ⑬

金沢市はまちの歴史を色濃く残した、ちょっとした町並みを「こまちなみ」として守り、育てるまちづくりを進めている。これに倣って、広島における残しておきたい「こまちなみ」を探訪し、シリーズで紹介してきたが、市内周辺から広島県内に対象を広げていく。

### うだつの上がる町 吉舎・七日市通

三次駅に着き、吉舎方面の福塩線の乗り継ぎを見ると後3時間！「これは待てない」とタクシーに乗る。話好きの運転手、馬洗川沿いを走るの「落ち鮎漁は終わりましたか」「わしもやるんじやが、これからでしょう」「三人で、兩岸に網を張って、追い込んで投網を打つんよ」「どのくらい獲れるん？」「多い時で300」「はあ？」「300匹よ、大きいのでシャクはあるのが入る」「シャク？」「一尺、30センチ。メスだと1500円で売れるよの」そんな会話をしているうちに三次市吉舎の旧市街地七日市通に着いた。

起点になるのが馬洗川に架かる巴橋北詰の「田中写真館」、昭和初期に建てられた吉舎のシンボリック建物。当時、洋館は珍しく近郷から弁当持参で見物に来たとか…。国の文化財建造物に指定されている。

人通りはなく、店らしい店もない。運転手さんが「あそこは食べることも喫茶店もないよ」と云っていた。家々に三連の暖簾が掛かっている。○△屋といった屋号のついたものが…。この暖簾は新市にあるデニム製造会社の工場が吉舎にあるため、そのデニム生地を染め抜いて作ったものだそうだ。旅籠、米屋等々店の名前が掛かっているが、その商売は随分前に辞めているところがほとんど。



案内図





この通りが最も栄えたのが江戸期、大森（石見）銀山から尾道までの銀・銅を運ぶルート上にあり、大森を出て3日目、ここで輸送隊が一休みして昼食を取る。この間、銀を背負ってきた馬を馬洗川で洗うとともに新しい馬への荷の付替え「銀付替」を行った。

この通りにはうだつ（自家と隣家の間の屋根を少し持ち上げた防火壁）が上がっている家が16軒ある。しかも建築当時のまま、いわば「手付かずの状態」で残っているのが珍しいという。しかし、壁が剥がれ落ちている家も散見される。「きさ商工支援センター」の松村紘二郎事務局長は「そこに住む後継者もおらず、維持管理するのは難しくなるでしょうね」と。

吉舎が栄えたのは尾道・三原と出雲・石見を結ぶ雲石街道に立地し、しかも世羅台地と三次盆地の接点にあり交通、交易上重要な位置を占めていたためだった。後鳥羽上皇が隠岐へ島流しされた時、この地を通ったと言われる。

明治時代には双三郡屈指の商業地として栄え、毎月7日の付く日には市が立った。2月27日は雛市、“デコ市”とも呼ばれ、3月3日の雛節句を前に三次のデコ人形を買い求める人で賑わった。4月1日～7日の四月市は牛馬市を当て込んで町は活況を呈した。日露戦争頃までは三次よりも栄えていたと言われている。

しかし、大正4年（1915年）、広島⇄三次に芸備鉄道の開通で三次が広島との中継点として飛躍的に発展、その後昭和13年に三次⇄福山の福塩線が全線開通によって、吉舎は一通過点になり、ますます三次への商業集積が進んでいった。

戦後、昭和30年代から40年代にかけて国道184号線が銀の道の北東側に出来、吉舎旧市街地の商業地としての重要性はさらに低下衰退し、今日に至っている。

町ではきさ商工支援センターを中心に「よいとこ発見隊」をつくり、歴史と文化の薫る街『吉舎町』を売り出そうとしているが、現実は厳しい。

最後に広域合併の弊害について、かつての双三郡は平成の大合併で、吉舎、三良坂などすべて三次市に組み込まれた。吉舎町役場は現在三次市の支所。訪ねて銀の道のことを聞いたが、そこにいた職員が「さあ？」とパンフレットを探して「銀の道～三次エリア～」を渡すのみ。また商工会も広域商工会になっており、一人いた女子事務員が「私わかりません」、そこで紹介されたのが一般社団法人「きさ商工支援センター」の事務局長の松村さん、「支所にしても商工会にしても地元の人はいないんですよ。みんな転勤で来た人ばかり、吉舎の歴史などは知りませんよ」と。

（編集委員 三宅恭次）

## ○アンケート調査の結果報告

前号のアンケートに1名の回答をいただいたので紹介する。ご協力に感謝！

- ・回答者は50代の男性で、広島市内在住の人である。

（Aさん）

- ・**広島のとこが好き？**→ 広島市の中心部とその周辺ということであれば、元宇品公園や本川の風景（寺町あたりは建築様式がある程度統一感があるのできれい。桜の時期は見事です）。川沿いは自転車で走ったりします。宇品には最近行ってないですが、自然と海の風景は貴重？

広島県内ということであれば、山などそれなりにいいところはあります。

- ・**嫌いな場所は？**→ 旧市民球場を囲む味気ないフェンスはどうにかしてほしい。放置自転車・バイクもひどいですね。ここはもうイベント広場でいいでしょう。

（その他）

新市民球場も結果的に紆余曲折の末の「まぐれ当たりホームラン」のようなもの。長



田中写真館  
（国登録文化財）  
（筆者撮影）

期的な視点は全くなかった。場所が空いていただけ。今でも歩行者の動線に課題。それに当時の市長（市議会？）が「屋根付き」にこだわらなければ、外資ではあるが早期に出来ていた可能性もある。

新サッカースタジアムも今まで「まちづくり」の視点を入れて長期的に考えていたか疑問。条件のいい空きスペースに当てはめただけ？

そんなに宇品が良いなら県庁が移転しては。跡地は市民サービスの部署は残して、ホテルとモール誘致を。個人的には広島は欧米の観光客が多いのでフォーシーズンズ・ホテルあたりがおすすめ。富裕層やインバウンドも取り込める。一等地なのにもったいない。(土地の所有権は国？県？)現在の県庁の建物に建築的価値があるなら話は別ですが。

## □編集後記

選りすぐりの選手が全身全霊で投げるボールをこれまた選りすぐりの選手が全身全霊で打つのです。打てたり、打てなかったり、一体どこにその紙一重の差があるのでしょうか。これを両軍合わせて50人の選手および監督、コーチ、関係者をして、9回27アウトで戦うのです。

12のチームが年間878試合の積み上げで、延べ47,412人アウトの戦いの結果、日本で最も強いチームの2番目に我が広島カープがなった。これもまた良しとしようではないか。

(編集委員 前岡智之)

**\*メルマガを読まれての感想や質問及びひろしまのまちづくりについて皆さんの自由な提案・意見をお聞かせください！**

(投稿は500字程度以内でお願いします)

### アンケートにご協力ください！

Q1. 好きな建築（どこのまちでも可）がありますか？一つだけ挙げてください。

- ・ある—————
  - ・どこが好きですか？
  - ・どうして好きですか？
  - ・どんな時に、どんな風に利用していますか？

Q2. 嫌いな建築（どこのまちでも可）がありますか？一つだけ挙げてください。

- ・ある—————
  - ・どこが嫌いですか？
  - ・なぜ嫌いですか？
  - ・どうしたらよいと思いますか？

Q3. あなたの属性を教えてください。

- ・性別（男・女）
- ・年齢（何十歳代）
- ・住所（広島市内・市外）

**\*アンケートの回答は、下記にメールで送信ください。**

回答先：[hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp](mailto:hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp)（広島アイデアコンペ実行委員会事務局）

### 編集委員

石丸紀興	広島諸事・地域再生研究所主宰
高東博視	心豊かな家庭環境をつくる広島21理事
瀧口信二	広島アイデアコンペ実行委員会事務局
通谷 章	ガリバープロダクツ代表
前岡智之	中国セントラルコンサルタント代表
三宅恭次	元中国放送役員